

令和5年度 学校マネジメントシート（年度末）

学校名（三重県立石薬師高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ○自主・・・自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育てる学校 ○創造・・・地域から信頼され、強い責任感を持ち、将来の社会に貢献する生徒を育てる学校 ○敬愛・・・笑顔にあふれ、人を思いやる豊かな人間性を持つ生徒を育てる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>【育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の学力を身につけ、主体的に学習に取り組み、生涯にわたり学ぶ力を育てる。 ○キャリア教育を通して自己の進路について考え、社会の一員として貢献できる力を育てる。 ○豊かな人間性を身につけ、積極的にいじめ防止に向けて行動できる力を育てる。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○互いに声を掛け合い、協力し合って、「チーム」として教育活動に取り組む教職員 ○授業を大切にし、研鑽を重ねて、授業力向上に取り組む教職員 ○生徒に寄り添い、笑顔と元気を絶やさず、丁寧に粘り強く生徒の指導に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望の進路を実現するために必要な能力（学力、コミュニケーション力など）を身につけたい。 ・学習だけでなく、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事や部活動等でも充実した高校生活を送りたい。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがしっかりと学習し、希望の進路を実現するよう指導してほしい。 ・いじめや暴力がなく、必要な支援を受けながら、子どもが安心して学ぶことができる学習環境を提供してほしい。 	
	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学力をはじめ、社会で求められる力を身につけさせてほしい。 ・学校と連携するために、学校での子どもの様子等を教えてほしい。 <p><地域及び地元企業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に誠実に取り組み、卒業後は地元で活躍する生徒を育ててほしい。 ・生徒が基礎的な学力や社会人として必要な資質を身につけられるように指導してほしい。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育段階での学習内容の定着が不十分な生徒もいるが、基礎・基本をしっかりと指導して、進路希望を実現させてほしい。 <p><杉の子特別支援学校石薬師分校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校と杉の子特別支援学校石薬師分校（以下、「石薬師分校」という。）の生徒が交流することを通じて、両校の生徒の人格形成や成長につなげたい。 <p><関係機関（警察、児童相談所、SSW、SCなど）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全・安心な学校生活のために連携を密にしてほしい。 	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の指導方針を理解し、保護者も生活習慣や服装等の指導をしてほしい。 <p><地域及び地元企業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が卒業後に地元で就労し活躍できるよう、雇用の拡大に努めてほしい。 ・インターンシップの受け入れなど、学校との連携・協力を推進してほしい。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活に必要な基礎的な学力や基本的な生活習慣を身につけさせてほしい。 ・生徒が高校生活を順調にスタートできるよう、情報共有を密にしてほしい。 <p><杉の子特別支援学校石薬師分校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校に在籍する特別な支援を必要とする生徒の指導について、専門的な視点からの指導、助言をしてほしい。 <p><関係機関（警察、児童相談所、SSW、SCなど）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全・安心な学校生活を確立するために、連携を密にし、協力してほしい。 ・専門的な見地からの指導や助言をしてほしい。
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		

(3) 前年度の学校 関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での学習内容があまり理解できてない生徒の割合が高いため、基礎学力をつけることが最重要課題である。 ・チームワークの向上としてはミドルリーダーを育てていくことが重要であり、OJTで研修したりすることは、教職員のコミュニケーションという意味でうまくいくと思う。 ・家庭との連携が密に取れているところはよいが、一方で教職員の時間外労働につながっているので改善が必要である。
(4) 現状と 課題	教育 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣が十分に身につけていない生徒が見られることから、「わかる授業」を通じて、学ぶ楽しさを実感し、学習の仕方をつかむことができる授業づくりへの継続的な取組みが必要である。 ・すべての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携を充実させ、教職員が「チーム石高」として、生徒一人ひとりしっかりと向き合い、サポートする必要がある。 ・生徒一人ひとりが進路実現に向けて自ら考え、取り組むことができるよう、3年間を見通したキャリア教育の充実にも努める必要がある。
	学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、学習面、生活面などあらゆる教育活動を通じて、生徒に対してきめ細やかな指導を行い、また工夫改善にも取り組むことで、成果が上がっている。一方で、クラス数減による教員数の減少に伴い教員の負担増が見込まれる。働き方改革の観点からも、業務の整理や効率化等による総勤務時間の縮減に向けた具体的な取組の推進が必要である。 ・併設する杉の子特別支援学校石薬師分校との連携を拡充し、それぞれが持つ教育の専門性や機能を生かした取組ができるよう、より一層、交流や情報交換を推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>【教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学習することの意義を理解し、主体的に学習に取り組むことができるよう、一人一台端末を効果的に活用しながら、基礎学力向上に特化した学習活動や個に応じたわかりやすい授業を展開する。 ・生徒が社会の中で自分らしく生きていくために、探究的な見方・考え方についての教科を横断した授業研究を推進するとともに、図書館利用を促進して読書に親しむことで確かな学力や豊かな人間性を育てる。 ・生徒が進路実現を果たすため、本校独自のキャリア教育プログラム「サクラサク・プラン」を中心に、総合的な探究の時間における進路学習や事業所・関係機関と連携した体験活動を充実することで、3年間を通じたキャリア教育・進路指導を実践する。 ・生徒が互いに励まし合いながら成長していくための仲間づくりを大切にするとともに、自己の可能性や適性について自覚を深めるための働きかけを行うことで生徒の行動や意識の変容を促し、社会人として求められるマナーやルールの定着、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくり、いじめの早期発見と早期対応を行うため、生徒によるいじめ防止活動への積極的な参加、いじめ問題解決に向けた実効性のある組織体制づくりを強化する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導や生徒指導、進路指導など、学校のすべての教育活動において、教職員が一体となって取り組むことができるよう、また、教職員全員がやりがいを持って職務を遂行できるよう、日常から互いに声を掛け合い、協力し合うとともに、教職員同士が知識、ノウハウ等を共有し、互いに教え合い、高め合うなど、「チーム力」の高い集団づくりを行う。 ・地域社会から信頼される学校づくりを推進し、学校が生徒にとって安心して楽しく通える魅力ある環境となるよう、家庭・地域と連携しながら、校内、学校周辺、通学路の美化活動や環境整備に努めるとともに、大規模災害に備えるための防災教育や危機管理体制づくりを推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力の向上・学習指導の充実	(1) ユニバーサルデザインの見点に基づき、教職員全員が共通理解のもとで統一したスタイルで授業を進めることにより、生徒が安心して授業を受けることができるしくみづくりを進める。 (2) 授業やアサガク、その他活動における一人一台端末の積極的な活用と探究学習および観点別学習状況評価の充実を図り、生徒の学習改善につなげる。 (3) 授業力向上週間を設定し、生徒の学習状況を踏まえながら、教職員が教科をこえて学び合い成長するための授業研究を行う。 【活動指標】授業の始めに授業のねらいと目標を明示するなど見通しを示している教職員の割合 100% 【活動指標】教職員の授業研究会への参加 1回以上 【成果指標】学校満足度調査で授業内容の理解について肯定的な回答をした生徒の割合 80%	・全教職員で「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を確認し実践した。 ・ICT機器を活用した授業を推進し生徒の主体的な学習活動につなげた。 ・授業力向上週間では、互いの授業を見て意見交流し授業改善に取り組んだ。 ◆授業のねらい、見通しの提示: 100%(前年 100%) ◆授業見学実施(1回以上): 93.5%(前年 91.7%) ◆石薬師高校の授業に満足した生徒の割合: 87.8%(前年 91.3%) ◆石薬師高校の授業内容を理解できると回答した生徒の割合: 78.6%(前年 81.3%)	◎
生徒指導の充実・豊かな人間性を育む教育の充実・命の尊さを理解しいじめのない学校の実現	(1) 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を活用し、生徒への声のかけ方など一致した考え方で指導にあたり、生徒の心の成長を促進する。 (2) 模範生徒表彰制度を継続し、真面目に努力する生徒を激励するとともに、生徒の意識の醸成を図る。 (3) 生徒同士が、お互いの人権を尊重し、思いやりの心を持っていじめのない安心した学校生活を送れるよう、きめ細かな観察と支援に努める。 【活動指標】模範生徒表彰の実施回数 3回 【成果指標】学校満足度調査で学校生活の安心感について肯定的な回答をした生徒の割合 80%	・個に応じた指導・支援を行うために、全教職員で情報共有しながら取り組んだ。 ・模範的な生徒の表彰も行いながら、生徒が安心して学べる学校づくりに努めた。 ・人権学習を定期的に実施、学校生活に不安を感じる生徒が生じないよう情報共有と組織的な取組を進めた。 ◆模範生表彰: 3回 ◆安心して過ごせていると回答した生徒の割合: 87.0%(前年 87.8%)	◎
キャリア教育(進路指導)の充実	(1) 生徒が自己の進路についてしっかりと考えることができるよう、入学時から必要な情報提供を行い、個々の生徒の状況に応じてきめ細かな相談体制を構築する。 (2) 生徒が目標を明確に持って進路実現をしていくために、インターンシップや模擬就職活動を行う。 (3) キャリア教育計画「サクラサク・プラン」を見直しながら、系統的なキャリア教育、進路指導を実践する。 【活動指標】個別・三者面談の実施 4回 【成果指標】学校満足度調査で目的意識の有無について肯定的な回答をした生徒の割合 80%	・高校入学時から進路学習に取り組み、外部人材による専門的な支援を活用することで、進路実現につながった。 ・進路指導部と学年が連携し、インターンシップや企業見学等の取組を充実することができた。 ◆面談実施: 計4回 ◆高校進学目的として学業や進路決定に関わる回答をした生徒の割合: 90.9%(前年 83.6%)	◎
改善課題			
・学校生活の満足度や学習意欲について学年が進むごとに低下しており、学習教材の工夫改善を図り、学習意欲を喚起したり、生徒が主体的に取り組む活動を増やしたりするなどの取り組みが必要である。 ・生徒指導やいじめ防止のための効果的な対策が求められる中、様々な対応場面で苦慮している面がある。			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員のチームワークの向上と不祥事を許さない職場づくり	<p>(1) 教職員が互いに声を掛け合い、学年や分掌をこえて協力して教育活動に取り組み、情報共有を密にして、何事も一人で抱え込まないようOJTで学びあえる職場風土をつくる。</p> <p>(2) 不祥事を許さない、風通しの良い職場づくりの一環として、コンプライアンス・ミーティング、オフサイト・ミーティングを定期的実施する。</p> <p>(3) 様々な教育課題についての見識を深めるとともに、本校における組織運営体制の不断の見直しを図るため、教職員研修会を計画的に実施する。</p> <p>【活動指標】コンプライアンス・ミーティングの実施回数 4回 オフサイト・ミーティングの実施回数 3回</p> <p>【成果指標】教職員を対象にしたアンケートにおいて、教職員のコミュニケーションが図れているということについて肯定的な回答をした教職員の割合 100%</p>	<p>・定期的にコンプライアンス研修を実施、組織全体の意識向上につなげる機会に設けた。</p> <p>・オフサイト・ミーティングでは、職員どうしコミュニケーションがとれ、互いのことを知る良い機会となった。</p> <p>・特別支援、教育相談、人権教育、授業改善、いじめ防止等のテーマで研修会を実施することができた。</p> <p>◆コンプライアンス・ミーティングの実施回数 4回 ◆オフサイト・ミーティングの実施回数 3回(うち1回は杉の子特別支援学校石薬師分校と合同実施)</p> <p>◆学校信頼向上委員会:4回 ◆教職員間の意思疎通:82.8%(前年80.0%)</p>	◎
保護者、地域、中学校等との連携	<p>(1) 年度当初の保護者会で、保護者との連携体制について確認を行い、学校での生徒の様子、生徒の家庭等での状況について、保護者との連絡・情報交換を密にする。</p> <p>(2) 保護者あてに学校からの情報を確実に届けるとともに、生徒、保護者にとって、わかりやすい情報提供に努める。</p> <p>(3) 地域社会に貢献できる人材育成に向け、地域事業所や関係機関との連携を一層図る。</p> <p>(4) 杉の子特別支援学校との一層の連携をはじめ、地域の小中学校やまちづくり協議会と連携した行事などに積極的に参画する。</p> <p>(5) 生徒が本校入学後に順調に高校生活のスタートを切ることができるとともに、途切れることなく必要な配慮や支援をできるよう、中学校等との情報共有を密にする。</p> <p>【活動指標】保護者懇談の実施回数 2回 【活動指標】家庭連絡を密にしていると回答した教職員 100% 【成果指標】保護者対象アンケートで学校の様子がわかることについて肯定的な回答をした保護者の割合 80%</p>	<p>・人権だよりや一斉メールにより、保護者に学校の取組を情報発信した。</p> <p>・杉の子特別支援学校と交流を深めることで、教育環境の充実につながった。</p> <p>・まちづくり協議会等と連携する機会が増え、生徒たちの活躍の場が広がった。</p> <p>・地元企業や関係機関との連携を密にし、生徒の進路実現につなげた。</p> <p>◆保護者懇談実施:年度内4回(うち2回は全員が対象) ◆家庭連絡を密にしていると回答した教職員の割合:95.5%(前年100%) ◆学校の様子がわかると回答:68.2%(前年71.2%) ◆生徒一人ひとりにきめ細かい指導をしていると感じる保護者の割合:87.2%(前年82.7%)</p>	◎
教職員が働きやすい環境づくり	<p>(1) 教職員が心身の健康を維持し、意欲的かつゆとりを持って教育活動に取り組めるよう、時間外労働時間を削減するための取り組みを一層工夫して行い、休暇が取得しやすく、短時間労働に対応できる体制をつくる。</p> <p>(2) 担任や分掌が担っている業務を見える化し、副担任や他分掌のサポートを増やすなど学校全体で業務に取り組む体制づくりを推進する。</p> <p>(3) デジタル採点システムなどICTを活用した業務の省力化に取り組むとともに、過重となっている業務を見直し、校務のさらなる精選を図る。</p> <p>【活動指標】設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% 【活動指標】予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100% 【活動指標】放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 100%</p> <p>【成果指標】時間外在校時間が年360時間を超える教職員数 0人 時間外在校時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人</p> <p>【成果指標】一人あたりの月平均時間外在校等時間 10時間以下 一人あたりの年間休暇取得日数 15日以上</p>	<p>・定時退校週間を設けて柔軟な運用とし、ポスターを作成して定時退校を呼びかけたところ、目標を達成できた。</p> <p>・休暇取得も増え、時間外労働時間についても全体として削減でき、月45時間超のべ人数は半減した。</p> <p>※数値は4～12月の期間分</p> <p>◆定時退校日(月1日) 定時退校週間のうち1日、定時に退校できた教職員の割合:100%(前年76.0%) ◆部活動休養日している部活動:100%(前年100%) ◆60分以内の会議の割合:80.6%(前年84.6%) ◆年間休暇取得:17.2日(前年15.3日) ◆時間外労働 月45時間以上:12人(前年29人) 年360時間以上:0人(前年3人)</p>	◎

改善課題

- ・教職員全体で様々な情報を共有し、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるように尽力しているが、限られた教職員数では対応不足の面がある。
- ・保護者に対して速やかな連絡により情報共有を行っているが、効果的な支援につながっていないケースがある。
- ・行事運営のスリム化などに取り組んでいるが、生徒対応に多くの人員が必要となり、教職員が総動員で行事等の運営に当たっており、業務改善が進みにくい。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誰一人取り残さないという SDGs の目標は杉の子特別支援学校と協働で始めるのが良いと思う。フードロスなど自分の身の回りから考えたり、心が動く体験を行ったりしてはどうか。 ・働き方改革について、生徒・保護者対応で帰れないということがあがるが、定時退校日を複数日から選択にし、自分で計画をして勤務時間を管理していくことも大事だと思う。 ・進路指導・キャリア教育を充実して、生き方について一緒に考える機会をつくっていくことで、授業の方も定着していくのではないかな。 ・コミュニケーション能力の育成が課題であり、外部の人となかなか会話できない子が多いので、地域の人に挨拶するというところから始めてはどうかと思う。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>【授業力の向上・学習指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にして、生徒の理解度を把握しながら「わかる授業」を実践し、学校生活の様々な場面で主体的な学びや探究的な学びの機会をつくっていく。 ・図書館の利用促進や読書活動の充実を図り、興味関心に応じた多くの知識を習得することで、想像力や感性、表現力を磨き、学習意欲の向上を図っていく。 ・一人一台端末（クロームブック）の効果的な活用により、基礎学力定着に向けた個別最適な学びの支援を実現するとともに、生徒どうしの学び合いや課題解決学習につなげていく。 <p>【生徒指導の充実・豊かな人間性を育む教育の充実・命の尊さを理解しいじめのない学校の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な成長・発達を支援するための生徒指導体制へと改善を図るとともに、不登校生徒やいじめの対応などについて、学校全体で生徒理解を深めることで、未然防止や早期対応、適切な支援を行っていく。 ・生徒が健やかに成長し、安全・安心に学校生活を送ることができるようにするため、いじめ防止のための学習機会の充実をはじめ、ネットリテラシーや情報モラル講座、様々な人権課題をテーマとした学習、性教育講座を全学年で実施していく。 <p>【キャリア教育（進路指導）の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所や大学、関係機関と連携し、生徒が将来自立した社会人となるための必要なガイダンスを実施するとともに、生徒が自らの進路を主体的に考えるための学習機会を増やしていく。 ・進路実現のために必要な生活習慣および基礎学力を身に付けるとともに、日々の授業の大切さを伝え、学んだ内容が将来就職した後にどのような場面で活用できるのかという視点で生徒に働きかけを行っていく。
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>【教職員のチームワークの向上と不祥事を許さない職場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教職員が学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受けとめ、様々な教育課題に対して自信を持って取り組んでいくための主体的・計画的な研修機会をつくっていく。 ・個々の生徒に寄り添った効果的な支援を行うため、当該学年・クラス担任だけでなく、学校全体で生徒理解を深め、効果的に支援する体制づくりを確立していく。 ・様々な課題を抱える生徒への支援策として、教育相談体制を充実し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、各支援員の活用をさらに充実していく。 ・教職員間の日常的なコミュニケーションを大切にするとともに、風通しの良い職場づくりの一環として、オフサイト・ミーティングを定期的実施していく。 ・公文書を適切に管理するとともに、不適切な事務処理や不祥事につながらないよう、コンプライアンス・ミーティングの継続的な実施やチェック機能の強化、チェックシートの活用を推進していく。 <p>【保護者、地域、中学校等の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者への連絡や配付資料におけるデジタル化を推進し、円滑で効果的な一斉連絡の実施と教職員の電話対応時間の大幅な削減につなげていく。 ・地域社会に貢献できる人材育成に向け、地域事業所や関係機関との連携を一層深めていく。 ・杉の子特別支援学校とのより一層の連携をはじめ、地域の小中学校やまちづくり協議会と連携した行事などに積極的に参画していく。 <p>【教職員が働きやすい環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日、学校閉校日、会議時間短縮等の取り組みを継続して行うとともに、教職員の健康維持のために休暇がとりやすい体制づくりに努めていく。 ・外部人材や専門スタッフのさらなる参画・協力により、チーム体制の学校運営を実現し、個々の教職員の業務負担軽減につなげていく。 ・デジタル採点システムなど ICT を活用した業務の省力化に引き続き取り組んでいく。